

2025年度（令和7年度）学校評価自己評価表

精華中学校区	校番 35	福山市立藤江小学校
最終更新日	2025年（令和7年）4月1日	

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する 資質・能力	【主体的に学ぶ力】【思考力・判断力・表現力】【自己形成力】
・プロセス評価の評点が向上するように、PDCA サイクルの視点をもってマネジメントしてほしい。 ・学校と地域との連携協力をさらに深め広げていくことが大切である。 ・少人数の良さを生かし、一人一人の子どもたちに成功体験を持てる機会を通して自己肯定感を育ててほしい。	・興味をもったことを探究するなど、主体的に行動する姿が増えている。 ・自分の考えを持ち、他者に伝えるなど、自己表現力が育ってきている。 ・教科で身につけたい力が十分身につけていない児童生徒がいる。 ・人間関係の固定化やレジリエンスにややかけるところもある。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	・確かな学力を身につけ、自ら進路を切り拓く子ども ・自己肯定感が高く、地域に愛着と誇りをもち、社会に貢献できる子ども
		中学校区として統一した取組等	・学力分析と授業研究を通じた「主体的な学び」の授業づくりに取組み、学力の向上を図る。(授業研究部会) ・「自分で選び・決める」活動に取組み、思考力・判断力・表現力を育成する。(プロジェクト部会) ・児童生徒の自己肯定感と自己有用感を向上させ、自己形成力を育成する。(自治活動部会)

III 自 校

ミッション		育成する 資質・能力	主体的に学ぶ力	思考力・判断力・表現力	自己形成力	
○笑顔で挨拶ができる子ども ○地域に誇りをもつ子ども ○自分の将来の夢に向かい粘り強く取り組める子ども		めざす 子ども像	小1 ～ 小4	日常生活をよくするために、生活体験などの情報を生かし、様々な課題に意欲的に取り組むことができる。	自分の考えを持ち、相手意識を持って、話したり書いたりして表現している。	思いやりの心を持ち、目標を達成するために、協力し合い、粘り強く努力している。
学校教育目標			小5 ～ 中1	日常生活や地域社会をよりよくするために、学ぶことに対し自分で価値を見出し、様々な課題に意欲的に取り組むことができる。	日常生活や地域社会をよりよくするために、既習事項を活用して、自分の考えや意見を話す・書く等で表現している。	日常生活や地域社会をよりよくするため、相手の立場も思いやりながら目標を決めて、最後までやり遂げようとする。
自分大切に 人を大切に ふるさと大切に しなやかに、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもの育成 「チャレンジ！ 藤江っ子」 ～未来に向かって アップデート～			中2 ～ 中3	社会をよりよくするために、学ぶことに対し自分で価値を見出し、様々な課題に自発的・能動的に取り組むことができる。	社会をよりよくするための課題を見つけ、既習事項を活用して、自分の考えや意見を工夫しながら表現している。	誰に対しても思いやりの心を持ち、より高い目標を達成するために、相手の立場や考えを尊重しながら、粘り強く取り組み、やり抜いている。
現 状						
＜児童生徒＞ 主体的な児童会・委員会活動を通して、児童に自分たちで学校をよりよくしようとする気持ちが高まってきた。関わり合いが増え、感謝の気持ちが育ってきた。相手意識をもって伝えることは出来てきたが、相手が何を伝えようとしているのか受け止め、理解するまでには至っていない。						
＜授業＞ 児童自らが学びに向かい、情報を整理する方法は身についてきた。しかし、目的や意図に応じて、それらの方法を使って自己解決することは十分ではない。						
		研究	テーマ	主体的に学び続ける子どもの育成～自己の学びを自覚し力をつける授業づくり～		
			内容等	○児童に学びの必然性をもたせることによる学習意欲の向上 ○児童一人一人の学びの見取りによる授業・単元づくり ○学校と家庭を学びで繋ぐ振り返りの活用		
		めざす授業の姿		・単元のゴールを児童と教師が共有し、見通しをもって学びを進めている。 ・児童が自ら課題を見つけ、見方・考え方を働かせ自らの思考を表現している。 ・振り返りを通して、児童自らが学びの変容を自覚し、次の学びにつなげている。		

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立藤江小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	力 _{70%} 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	力 _{70%} 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
4	「主体的な学 び」の授業づ くりを進め、 学ぶ意欲と学 力の向上を図 る。	★	見 直 し	個々のつまずき を把握し改善を 図るとともに、主 体的・協働的な学 びを大切にした 授業づくりで、学 力の向上を図る。	・単元のゴールを 児童と教師が 共有し、学力向 上につながる 授業を行う。 ・児童のつまずき を解消するた め「授業づくり ポートフォリ オ」を作成し、 学力分析・課題 改善を行う。	・算数科の単元テ ストにおいて、 60点未満の 児童を20% 以下にする。 ・標準学力テスト の算数科にお いて、全国平均 を上回る児童 を前回以上に する。 ・「授業づくりポ ートフォリオ」 を作成し、結果 分析からつま ずきを見出す。									
			継 続	読書活動に積極 的に取り組む児 童を育成する。	・読書活動に積極 的に取り組む よう、年間目標 読書数を設定 し、読書カード で読書数の把 握を行う。 ・当該学年の国語 の教科書に紹 介されている 本から必読書 を設定し、読む 本の分野を広 げる。	・目標読書数を 超える児童85% 以上。 ・当該学年の国語 の教科書に紹 介されている 本を全て読ん だ児童80% 以上。 ・委員会の活動と 繋げて、学校図 書館への来館 者数前年度以 上。									
4	児童の自己肯 定感と自己有 用感を向上さ せ、自己形成 力を育成す る。		見 直 し	よりよい学校生 活を送るために、 自ら進んで行動 する児童を育成 する。	・学級、全校での 活動を学級や 児童会・委員会 の児童が主体 となって企画 運営する。	・お互いに協力し ながら課題の 解決に取り組 んでいる児童 80%以上。 ・企画運営の際に は、プロセスを 大切にし、児童 に力がつくよ う指導助言を 行っている教 師80%以上。 ・企画運営年2回 以上。									

[illegible]

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。